

経済・金融  
フラッシュ英国GDP(2025年4-6月期)  
—前期比0.3%でプラス成長を維持

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

## 1. 結果の概要: 前期比では0.3%増に減速もプラス成長を維持

8月14日、英国国家統計局(ONS)はGDPの一次速報値(first quarterly estimate)および月次GDPを公表し、結果は以下の通りとなった。

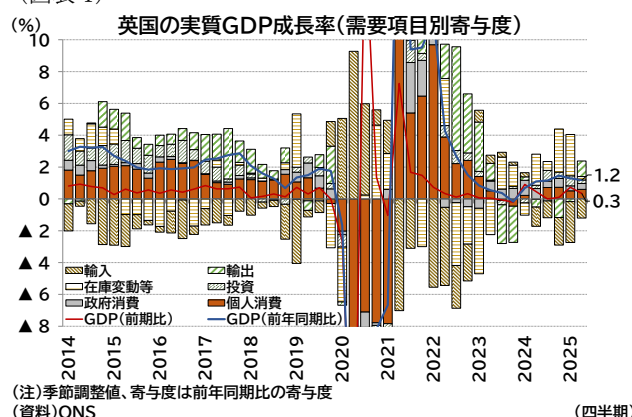
## 【2025年4-6月期実質GDP、季節調整値】

- ・前期比は0.3%、予想<sup>1</sup>(0.1%)より上振れ、前期(0.7%)から低下した(図表1)
- ・前年同期比は1.2%、予想(1.0%)より上振れ、前期(1.3%)から低下した

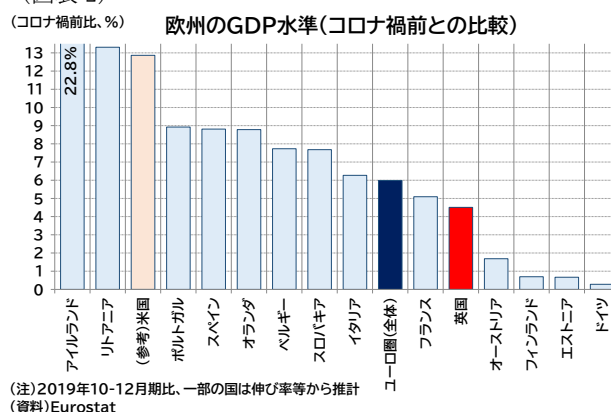
## 【月次実質GDP(4-6月)】

- ・前月比は4月▲0.1%、5月▲0.1%、6月0.4%となり、6月は予想(0.2%)より上振れた

(図表1)



(図表2)



## 2. 結果の詳細: 駆け込み需要の反動は予想よりも軽微で、6月には高めの成長率を記録

英国の4-6月期の実質成長率は前期比0.3%(年率換算1.4%)となり、関税政策の実施前の駆け込み需要など<sup>2</sup>で成長率が押し上げられていた1-3月期(前期比0.7%、年率3.0%)から減速した。4-6月期の実質GDPの水準はコロナ禍前(19年10-12月)と比べて4.5%ほど高い水準まで回復した。ただし、ユーロ圏各国と比較すると相対的に回復は遅れている(図表2)。

前期比成長率を需要項目別に確認すると、前期比では個人消費が0.1%(前期0.3%)、政府消費が1.2%(前期▲0.4%)、投資が▲1.1%(前期2.0%)、輸出が1.6%(前期3.3%)、輸入が1.4%(前期2.0%)、前期比寄与度は在庫変動等が0.20%ポイント(前期▲0.11%ポイント)、

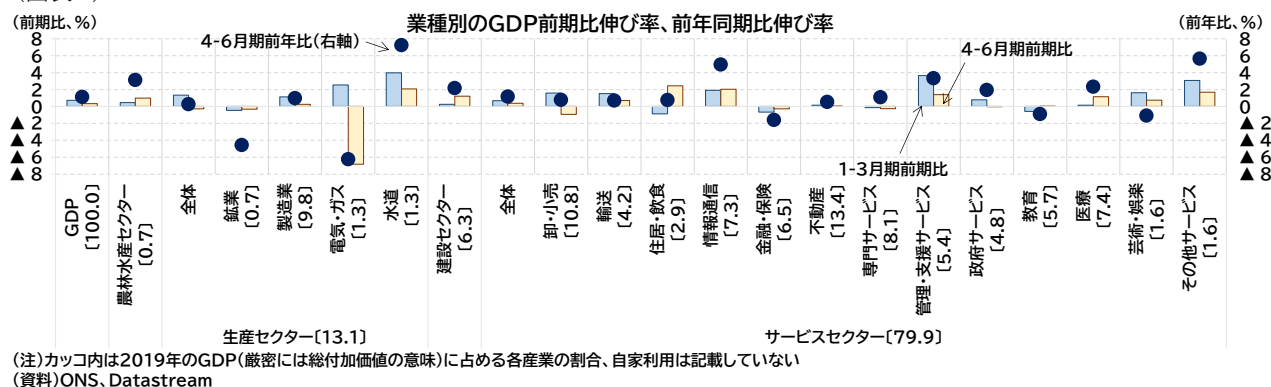
<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想も同様。

<sup>2</sup> 4月からの住宅購入に伴う印紙税の増税(課税基準額の変更)も駆け込み需要の一因。

純輸出が0.02%ポイント（前期0.34%ポイント）となった。在庫変動が成長率を押し上げた形であり、個人消費や投資は力強さに欠けた。

コロナ禍前比で見ると個人消費が2.3%、政府消費が13.4%、投資が5.9%、輸出が▲1.5%、輸入が12.2%で、輸出の回復が相対的に遅れている。

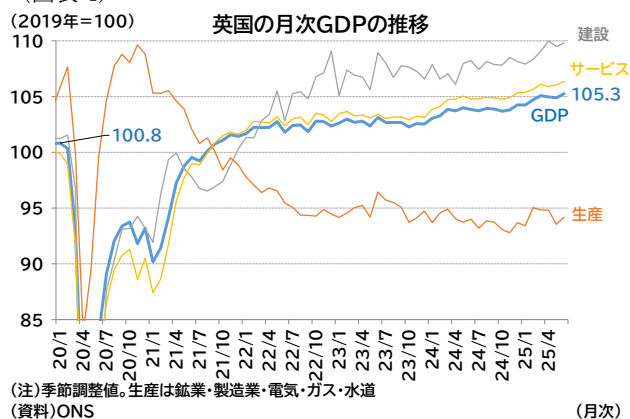
(図表 3)



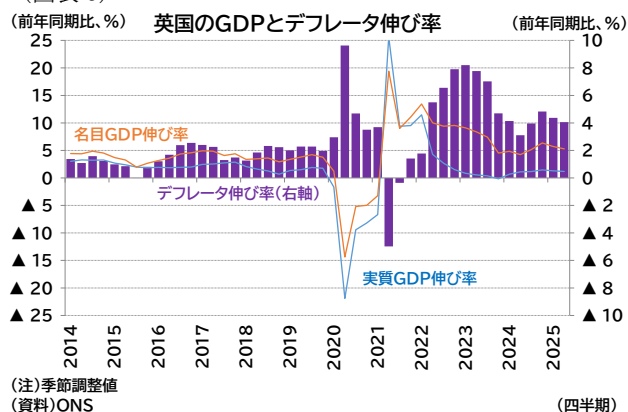
成長率を部門ごとに確認すると、農林水産部門が前期比1.0%（前期0.5%）、生産部門が同▲0.3%（前期1.3%）、建設部門が1.2%（前期0.3%）、サービス部門が同0.4%（前期0.7%）となった。生産部門が高めの成長を記録した前期からマイナス成長に転じたが、その他の部門はいずれもプラス成長を達成した（図表3）。より細かい産業分類では、住居・飲食（2.4%）、水道（2.1%）、情報通信（2.0%）、その他サービス（1.7%）が高めの成長率を記録、一方で電気・ガス（▲6.8%）、卸・小売（▲0.9%）はマイナス成長が目立った。

単月の状況を月次GDPで確認すると4月が前月比▲0.1%、5月が同▲0.1%、6月が同0.4%となり6月が高めの伸びとなった<sup>3</sup>（図表4）。

(図表 4)



(図表 5)



名目GDPは、4-6月期の前期比で0.8%（前期は1.5%）、前年比で5.3%（前期5.7%）、デフレーターは前期比0.4%（前期0.8%）、前年同期比4.1%（前期4.4%）となり、デフレターの減速傾向が継続している（図表5）。

名目GDPを所得別に見ると、雇用者報酬が前期比1.3%（前期2.0%）、営業余剰は同▲0.1%（前期▲0.1%）となり、営業余剰はマイナス成長が続いている。

<sup>3</sup> ONSは、6月に軍事関連製造が顕著に増えた点を指摘している。